令和7年度 学校評価総括表

聖心学園中等教育学校

建学の精神	豊かな特性と広く深い学識を持ち、世界的視野に立つ心身ともに明るく健康的な紳士・淑女を養成する。	総合評価
教育理念	建学の精神に基づき、時代の要請に対応し、現代社会に貢献でき得る人間育成に努める。 学を修め、礼節を重んじる心豊かな品位のある生徒の育成に努める。	
めざす生徒像	目標を高く掲げ、自ら考えて積極的に行動できる生徒。自他の生き方を尊重し、互いを理解し合おうとする生徒。	
学校教育目標	(1) 学業に専念する姿勢を育て、豊かな知性と教養を身に付けさせる。 (2)自ら問いを立て、他者と協働して課題解決に取り組む力を身に付けさせる。 (3) 自他を敬愛し、自ら進んで社会に貢献しようとする意欲を育てる。 (4) 礼節を重んじ、品位を養い、誠実で寛容な態度を育てる。 (5) 生命を尊び、自然を愛し、崇高なものに感動する心を育てる。	

昨年度の成果と課題	本 年 度 の 教 育 目 標	具 体 的 目 標
[成果] ・ICT教育の充実 ・本校教育の魅力の発信 [課題] ・生徒の学習意欲の高揚及び学力の保障 ・いじめ防止にも繋がるなかま集団づくり	[成果] ・ICT教育の充実 ・本校教育の+B13:F16魅力の発信 [課題] ・生徒の学習意欲の高揚及び学力の保障 ・いじめ防止にも繋がるなかま集団づくり	・基本的な知識・技能を身に付け、自ら考えて体験をしたり、表現したりする活動を通して、知識・技能確実にしながら、、主体的に学ぶ態度を身に付けさせていく。 ・探究活動をはじめ全教育活動を通して、土台である「考える力」を身に付けさせ、国際社会で通用する力をもった人材を育成する。

分掌・学年	評 価 項 目	具 体 的 方 策	評 価 指 標	自己評価	成果と課題（評価結果の分析）	課題の改善方策等	学校関係者評価
教務部	学習指導力の向上と授業改善	昨年に続き、授業公開期間を設け、全教員が公開期間内に1回以上の授業を参観する。 授業単元や内容、工夫点等を事前に授業者に聞き取り、授業参観報告書に記入する。また、参観後は、感想・意見・助言・質問等を授業参観報告書に記入し、意見交換をする。意見交換後に授業参観報告書を授業者に提出する。	・全教員（100%）が授業公開期間中に1回以上参観できたか。 ・授業参観後、記入した授業参観報告書を授業者に提出し意見交換できたか。	B	90%以上の教員が授業公開期間中に他の授業を参観できた。「他教科で生徒が試行錯誤する姿を見ることができ、自教科とは違う視点で取り組む生徒の様子を観察でき、生徒への接し方や生徒の興味関心の引き出し方等、参考になった」「ICT機器を活用した教材の工夫の仕方や、板書・入力のタイミング等、自身の授業改善の参考になった」「担任は、自クラスの雰囲気を知ることができ、ホームルーム経営に役立った」などの声が聞かれ、一昨年・昨年に続き、一定の成果を得ることができた。全教員が積極的に参観できるよう促していきたい。	教科や学年の枠を越えて、教員相互の指導力・授業力の向上を図るため、引き続き、次年度も授業公開期間を継続して設定する。また、自己研鑽・相互研鑽を通して、力量を高めあう職場の雰囲気を醸成できるよう、教科会議等での連絡の機会を増やし、全教員が積極的に参観できるよう促していきたい。	B
進路指導部	完全6年制中高一貫教育の特色を活かした進路指導を推進する。年々変化する大学入試制度に対応するため、具体策を各教科・学年と連携しながら検討・実施する。	・個々の生徒に応じた進路指導を学年間で密接に連携を取りながら推進する。 ・国公立大学、難関私立大学を目指した指導体制を確立する。 ・大学入試に関わる正確な情報を共通理解のため、最新状況について情報を提供する。 ・生徒の希望進路を叶えるため、その意欲を高める指導を推進する。	・教員対象の進学研修会を実施するとともに、各種進学指導研究会に積極的に参加し、最新の進学情報を入手する。 ・生徒対象の進路講演会、進路ホームルーム等を通じて、生徒の進路に対する意識、意欲を早期から高め、行事・取組の事後検証を行う。 ・模擬試験の結果分析から得られた課題を、学年・教科と共有し、連携して克服策を探り、多様な受験方式で国公立大学、難関私立大学への合格者を全体の30%以上にする。 ・キャリア教育におけるホームルームの中で、職業等調べ、将来への希望をはぐくむ。	B	各ホームルーム担任と連携して、個々の生徒に応じた進路指導を推進することができた。大学入試に関わる最新情報に関しては、生徒対象進路説明会や保護者対象進路説明会を実施し、共有することができた。各学年において実施された模擬試験の結果を分析し、各教科と連携をして進路指導に役立てることができた。実施された各種進学指導に関わる研究会や研修会に積極的に参加し最新の進学情報を入手し共有することができた。大学入試に関わる最新情報などを共通理解するための職員研修などは、志望校検討会等を通して実施することができた。多様な受験方式を用いて国公立大学、難関私立大学等への合格者を全体の30%以上を達成することが概ねできた。その内旧帝大の合格者を出すことが、できた。	達成できた項目については、次年度も目標項目として維持していきたい。加えて、大学入試における最新情報を入手し職員研修を経て生徒の進路指導に役立てるようにしていきたい。生徒個別に最適化された指導をするため各学年で受験した模擬試験の振り返りを実施し学校全体として一貫した指導方針を確立する必要がある。また、進路選択においてミスマッチを起こしてしまう事例が多くあるため、キャリア教育を通して、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力等を育成していきたい。また、旧帝大を含めた国公立大学の合格者を輩出するため、教科指導や進路指導の方法を確立する必要がある。	A
生徒部（生徒指導部、教育相談部）	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上	・毎朝の登校指導と定期的な下校指導 ・遅刻カードによる年間の遅刻回数の把握 ・全校集会毎の身だしなみチェック	・日直や週番活動の日誌による、日々の状況観察。 ・昨年度に比べて、全体及び各自の遅刻回数が減少しているか。 ・改善を指摘される生徒が減少しているか。	B	日直や週番活動などで生徒の様子を全教員で観察し、生徒の変化を共有できた。変化に気づくことはできたが遅刻や欠席の回数の現象にはつながっていない。 身だしなみチェックでは指導を受ける生徒は減少してはいるものの、チェックのある日の対応だけで日ごろの改善にはつながっていない生徒も見受けられる。	日直制度以外にも生徒部の定例会を開催し、生徒の情報交換を密にすることで小さなほころびの内から対応に当たれるようにすることや、アンケートの結果をフィードバックすることでさらに教員の対応につなげることで遅刻や欠席を減らしていく。	B
文化図書部	昨年度より一層、の文化活動のさらなる充実を目指す。 図書館利用を活性化させるとともに、蔵書の充実に努める。	・文化活動のさらなる充実を図り、生徒の知的好奇心、創造力、クラスでの団結心を育む。 ・図書館の運営については、生徒図書委員会を開き、貸出、返却業務や、購入希望図書アンケートの実施・集計をし、生徒により親しみのわく図書室となるような図書を選定、購入し、可能な限り昼休み放課後に開館する。	・生徒の知的好奇心、創造力、クラスでの団結心を育むことを目的に、さらには礼節を重んじた文化行事を従来どおりの4回以上実施できたか。 ・図書室においては、図書委員の活動を通して、生徒の希望図書を購入でき、週5回以上開館し、利用を促すことができたか。	B	・新入生歓迎会において、部活動紹介の枠が大きくなり、歓迎の意味合いが薄れてしまった。 ・文化祭は全体を通して成功裏に終えることができたが、生徒間の情報共有がうまくいかない部分が多数発生した。 ・百人一首大会より生徒会に運営を譲渡したが、1年目ということもあり、細かなミスが発生した。 ・図書館業務が年度当初想定していた通りには実施できなかった。	・新入生歓迎会において、部活動紹介の枠が大きくなり、歓迎の意味合いが薄れてしまった。 ・文化祭は全体を通して成功裏に終えることができたが、生徒間の情報共有がうまくいかない部分が多数発生した。 ・百人一首大会より生徒会に運営を譲渡したが、1年目ということもあり、細かなミスが発生した。 ・図書館業務が年度当初想定していた通りには実施できなかった。	B
環境美化部	学校生活を健全かつ豊かにするため、また、学習効果を高めるため、校舎内及び校庭の環境整備に努める。	・毎月1回の「安全点検の日」を活用し、施設・設備、備品の状態などを確認するとともに、清掃道具についても日常的に整備、保守点検を行う。 ・奈良教弘の「花いっぱいプレゼント」でいただいたチューリップの球根をプランターに植え、校門付近に設置することで生徒の植物に対する関心や地域との交流の活性化を目指す。 ・生徒が主体となるボランティア清掃等を計画する。	・安全点検による破損箇所の修復を100%行うことができたか。 ・生徒主体にプランターの植えつけ、設置ができたか。 ・ボランティア清掃を計画・立案し実施することができたか。	B	・通学路のボランティア清掃については、ほぼ計画通りに実行できたが、天候によってルートを短縮して行うこともあった。 ・花壇の植え付けには、美化委員だけではなく、5年生の有志の生徒も参加してくれたので、作業が早く完了した。 ・橿原神宮のボランティア清掃については12月24日に実施する予定で進めていたが、あいにくの天候で中止せざるを得なくなった。	・通学路の清掃については、天候に左右されることが多かったので、来年度からは校内の美化活動に重点を置く。 ・花壇の植え付けについては継続して行う。 ・橿原神宮のボランティア清掃については来年度、実施予定であるが、インフルエンザの流行する時期でもあり、来年度以降の実施の有無や実施時期については相談していく。	B
保健体育部	・心身共に健康な学校生活を送ることができる生徒を育てる。 ・感染防止対策の徹底を図る。	・学校管理下での負傷等による保健室来室者数を減少させるために、疾病や怪我の予防法などの情報発信や基礎体力づくりに努める。 ・登校前自宅での検温、登校後の検温、教室の換気、手指消毒・咳エチケットの徹底を図る。	・保健室来室者の外科的主訴が、昨年度、捻挫や突き指の疑いが、8%と増加傾向にあるので、このまま増加していかないための工夫として、体育授業での十分な準備運動、「ほけんだより」の毎月の発行が実施できたか。 ・発熱生徒の登校前欠席の判断が適切にできたか、感染リスクの高い生徒への咳エチケットの注意喚起ができたか。教室の換気を徹底するために毎時間終了後の教員による確認ができたか。	B	・保健室来室の外科的主訴は横ばいであるが、スポーツ振興センターの災害申請は増加したことから、突き指や捻挫の重度化が懸念される。 ・発熱生徒の欠席判断は保護者の協力を得られ、登校後すぐの体調不良・発熱による早退は減少した。 ・咳エチケットや手指消毒については、個人差が現れた。 ・換気の徹底については、エアコンが必要になる夏季・冬季になると徹底されていなかった。	・運動時や教室での移動での捻挫や骨折の疑いが多いため、体育前の準備運動はもとより、日常生活でけがをしにくい体づくりに取組む必要がある。 ・感染対策は、生徒自らが日頃から意識してできるよう指導に努める。 ・教室の換気については、気づいた時ではなく、「1.3.5限後の休み時間に行う」など機械的に実施する。	B
入試広報室	入学者65名以上の確保	①入試広報行事の早めの告知。 ②塾訪問の強化。特に奈良市内への塾訪問強化。 ③夏期講習前の6月に塾関係者対象学校説明会の開催。	④合計入学者数（60名以上A、55名以上B、55名未満C）	C	前半の入試広報行事では目標に達する参加者があったが、後半になるにつれて参加者が減少していった。入試の結果としては、一定のレベルを下回る児童の受け入れは塾等にも断ったため、相談や入試の段階で本校入学をあきらめた児童が数名いた。しかし、入学後の学校生活のことを考えるとこの方針は変えるべきではないと思われる。 10年以上前の入試広報活動は教員が片手間に行っても十分成果を出せたのであるが、少子化や立地を考えると、入試広報に集中するプロの部署として複数人を雇うことも考えていかなければならないかもしれない。さまざまな試みが中途半端になっているのかもしれないと感じる。	課題は目標の入学者数を確保できないことであるが、この原因には、ブランド力のなさ、進路実績の低下、情報発信回数の少なさなど複数の要因が絡み合っている。次年度は入試広報として、体制作りからはじめ、SNSやインターネットツールの利用促進と、その他情報発信を頻繁に行い、本校の認知度向上を図るべきだと考える。本校に足を運び、説明を聞きたくなる情報発信を最重要課題に上げて入試広報に取り組む考えである。また、入試広報の体制や方法を根本的に見直す時期かもしれない。	C
人権教育委員会	・学年の取組テーマに基づき、実施日・実施内容等の年間指導計画を立て、創意工夫のもとに人権ホームルームを展開する。さらに、教職員は研修の機会をとらえ、自己の人権感覚を磨くとともに研修での情報を共有する。	・人権について正しい理解や認識、また、感覚を培うため、学年の実態や状況を踏まえながら年間指導計画の立案と、それに基づく適切な指導案を作成する。また、さらに踏み込んだ学習の場として、外部講師を招いた講演会や映画鑑賞会を年度内に1回は実施する。 ・研修会等の開催要項等、実施通知文書や案内ちらしの掲示や回覧を行い、積極的な参加を促す。	・年間指導計画に基づき、計画どおり人権ホームルームを実施できたか。また、その振り返りや総括等が行えたか。さらに、外部講師を招へいして年間1回の講演会・映画鑑賞会を開催できたか。 ・研修会や講演会に、最低2名の教員の参加を促し、実際の参加があったか。	B	人権ホームルームは概ね、各学年工夫をしながら、計画通りに取り組めた。人権講演会も前期課程、後期課程別に行うことで課程ごとに見合った講演会になった。また校外の研修会にも2名の教員の参加があった。さらに例年夏期休業を利用して作成する前期課程の人権作文には、生徒がさまざまな人権課題に関心があることが伺えた。差別を許してはならないという思いが読み取れる作品は数点目につき、入賞作文に関しては全校生徒の前で朗読も行い、人権意識の啓発に繋がった。	後期課程の人権作文に関しては校内選考されたものが作文集には掲載されなかったが、引き続き、人権意識を促していくための働きかけをしていきたいと考える。	B
渉外委員会	新体制となった育友会活動が円滑に実施されるためのサポート	・聖華祭、育友会研修会等の活動のサポート ・広報誌「聖心広場」発行のサポート	・年4回の育友会実行委員会、その他活動のサポート ・広報誌「聖心広場」年1～2回発行に対するサポート ・育友会研修会などを通した会員交流のサポート ・年間活動計画と活動内容の次年度に向けた検討と変更	B	昨年度の活動を基本に、概ね計画達成できた。今年度の耐寒訓練はコース変更のため、学校に戻らず各学年がそれぞれ解散となったので、実行委員会の生徒への炊き出しは中止となった。来年度の変更点として、「聖心広場」をオンラインで発信することを検討している。	育友会活動は内容が固定化されており、現状うまく実施されていると思うが、一度変更されたことに対して話し合いなど行われず、マンネリ化した感が否めない。どのような活動を行っていくのかを模索する必要があると考える。	B
いじめ防止対策委員会	いじめの未然防止、早期発見及びいじめ事案の対処、再発防止	・学校生活についての個人面談 ・いじめアンケートの実施（年2回） ・いじめ防止対策委員会の実施（年間4回）	・学校生活についての個人面談を各クラスで年2回以上実施できたか。 ・いじめ事象が解消又は解消方向に進んだか。 ・いじめ防止対策委員会を年4回実施できたか。	B	面談及び委員会はそれぞれ実施できた。事象の解消については、対象が変化したり態様が変わることが多く、完全に解消することが難しく、観察中となることが多かった。	あらゆる学習機会を通して、いじめはいつでも誰にでも起こりえることではあるが、決して見過ごしてはいけないことを伝える。いじめが 起きないようにする方途や、起きそうになった時の対応について、子どもたちと一緒に考える機会を持つ。	B